

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104258
法人名	株式会社 さくら会
事業所名	グループホーム さくら
訪問調査日	平成20年3月1日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104258		
法人名	株式会社 さくら		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地 (電話番号)	鹿児島市福山町958番地1		(電話) 099-278-0550
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号		
訪問調査日	平成20年3月1日		

## 【情報提供票より】(平成20年2月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年4月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	12.7 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋1階建て 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	木村外科内科、川畑内科クリニック、脇丸病院、渡辺ファミリークリニック、石窪歯科、しばやま歯科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園や住宅に囲まれた静かな環境の中、広々とした敷地に建てられたホームである。内部もゆったりとして清潔感に溢れ、さわやかな雰囲気である。開設者の出身地ということもあり、地域とのつながりが強く、交流も盛んである。職員への接遇マナー教育が徹底されており、気持ちの良い挨拶が交わされている。食事は、地域の方々のお裾分けや自家栽培の旬の食材を使用して、安全・安心を第一に考えている。さらに、彩りや盛り付け等、見た目にも工夫を凝らし、入居者の一番の楽しみである食事が、より楽しいものとなるように努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	継続的な研修の受講については、隣接施設の開設などによる職員の動きもあり、引き続き課題としてあげられている。注意の必要な物品の保管・管理については、目につかないような工夫や、保管場所を変更するなどの工夫がなされている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義についての確認を行った上で、職員間で評価内容を話し合い、管理者により取りまとめが行われている。評価内容は業務に反映され、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、入居者及びホームの活動や状況を報告し、取り組み内容への評価や意見・要望を聴取することにより、運営に役立てている。会議の内容は、職員にも申し送りにおいて周知されている。市及び地域包括支援センターからの出席については、声かけしているが今のところ実現していない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内には、意見や要望を出すための窓口の掲示や意見箱の設置がなされている。面会の際や、介護計画作成のための面談の際には気軽に意見を出せるように、ホーム側からの声かけが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日々の暮らしの中で、地域の方々が野菜などのお裾分けを持って立ち寄られたり、ホームからも、地域活動や行事に出向いたりしている。児童や生徒の社会科学見学や職場体験実習を受け入れており、学校へ出向いての「認知症」講座も開催している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「心」を掲げ、入居者を常に尊重する姿勢を持ち、その人らしく暮らし続けられるように意識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者を自らの家族として意識しながら、日々、「心」を念頭に置いたケアに取り組んでいる。10日に1回のミーティングの際には、更に振り返りや確認作業により共有を図っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の暮らしの中で、地域の方々が野菜などのお裾分けを持って立ち寄られたり、ホームからも、地域活動や行事に出向いたりしている。児童や生徒の社会科見学や職場体験実習を受け入れており、学校へ出向いての「認知症」講座も開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義についての確認を行った上で、職員間で評価内容を話し合い、管理者により取りまとめが行われている。評価内容は業務に反映され、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者及びホームの活動や状況を報告し、取り組み内容への評価や意見・要望を聴取することにより、運営に役立っている。会議の内容は、職員にも申し送りにおいて周知されている。市及び地域包括支援センターからの出席については、声かけしているが今のところ実現していない。	○	開催頻度を更に増やし、行政を含めた多様なメンバーの出席により、様々な立場からの意見をいただき、運営に活かすことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に地域包括支援センターとの行き来があり、入居状況の話し合いや困難事例の受け入れ相談等が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日々の暮らしぶりについては、面会時の説明や毎月送られる「たより」を通じてご家族に報告され、金銭出納も収支を確認の上でサインをもらっている。健康状態の変化により病院受診等が必要な場合は、随時連絡が取られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には、意見や要望を出すための窓口の掲示や意見箱の設置がなされている。面会の際や、介護計画作成のための面談の際には気軽に意見を出せるように、ホーム側からの声かけが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動があった場合には、入居者への影響が少なくすむように、引継ぎ期間を設け、新入職員が入居者や業務に馴染めるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者より、職員一人ひとりに合わせた指導・助言が行われている。内部の勉強会のほかに外部研修会へも参加しており、その内容については報告されて職員間で共有している。年間研修計画等は、今のところ作成されていない。	○	職員の経験年数や能力に応じて段階的に育成するために、年間研修計画等を作成し、計画的な育成システムを構築していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームより訪問を受けたり、運営状況についての相談・連絡を行い、交流の機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、事前に面談を行いホームの状況を説明した上で、体験入居等を経て入居に至っている。入院中の方については、こちらから訪問してお話をうかがっている。入居後は、積極的な関わりを持ち、ご家族とも協力しながらホームの暮らしに馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のペースを大切にしながら、本人本位に、できる活動を行ってもらいながら支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、思いや意向について聞き取り、ケース記録等に残し、申し送りやミーティングを通じて職員間で共有を図っている。表現が困難な方については、触れ合ったり抱きしめたりしながら反応を見て対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の望む暮らしについてニーズとして捉え、入居者・ご家族・職員がサービス担当者会議にて内容を検討・共有しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の内容について毎月モニタリングしながら、見直しの必要性がある場合には、目標の期間にとらわれことなく、現状に合わせた内容へと変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・ご家族の要望に応じて通院支援を行ったり、医療連携体制により、看護師による管理のもと重度化や終末期への対応も柔軟に行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のこれまでのかかりつけ医を継続しながら、定期的な診療を受けられる体制を維持し、診療内容の確認及びご家族への報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化へ向けた意向を聞き取り、定期的に内容の見直しについて話し合われている。かかりつけ医やご家族との協力により、入居者をホームで看取った事例もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マナーについては厳しく教育されており、入居者の個人情報や羞恥心への配慮についても徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのペースを尊重して、ホームのスケジュールを優先することなく、希望に沿った生活ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人に栄養士を配置しており、地元の食材をふんだんに使った料理が、彩りや盛り付けにも配慮されて提供されている。入居者と職員が、共に食卓を囲みながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームで決められた入浴日はあるが、入居者の健康状態やその日の状況に応じて柔軟に対応できる体制がとられ、一人ひとりがゆったりと入浴が楽しめるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のこれまでの習慣や趣味活動をホームの中でも活かせるように、菜園や用具、活動の機会を作り、喜びや楽しみのある生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の物産館へ買い物に出かけたり、近所やホームの中庭を利用してお茶を味わうなど、楽しみながら外出する機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯対策のため施錠しているが、日中は鍵をすることなくいつでも誰でも気軽に立ち寄れるように開放されている。帰宅願望が強い方などの場合は、職員が寄り添うなどの対策がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルも整備され、定期的に防災訓練も実施されている。訓練では、器具の使用の確認や実技、点検等が行われている。自家発電設備もあり、緊急時に備えている。管理者は救急救命士資格を保有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無農薬や自家製のものを主体にしたメニューが多く、また地域の方のお裾分けが食卓に並ぶこともある。栄養士が栄養バランスの管理をしており、食事量や水分量の確認もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく大勢で楽しむことのできる食堂や、数人でくつろげる掘りこたつスペース等、広々として入居者が居場所を選べる共用空間となっている。キッチンも余裕のあるスペースで、使用しやすく配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれに思い出の写真が貼られていたり、馴染みのものが持ち込まれており、それぞれ自由に居室づくりがなされている。		